

区分・種別	重要文化財(彫刻)		
名 称	もくぞうあみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像（本堂安置） 1躯		
所 在 地	松山市南江戸		
所 有 者	大宝寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和32年2月19日		
解 説	この坐像は、大宝寺の本尊としてももとは国宝建造物である本堂の正面厨子^{ずし}に安置されていた。秘仏としてみだりに開かれず、古くから寺では薬師如来として信仰されてきた。 像高は137.9cm、頭頂部よりあごまで47.3cm、膝張り119.7cm、膝奥78.8cmの堂々とした大形の寄木造坐像である。目は半眼に伏せ、丸い顔、緩やかに流れる衲衣^{のうえ}の波、低い両膝を包む浅い刀法の衣文^{えもん}など、よく平安仏師の定朝風^{じょうちょう}の刀法を表している。 作者は明らかではないが、全体の手法から藤原時代の作とみられる優品である。昭和34（1959）年に修理され造像当初の姿に復している。		

